

# 上部頸椎専門 ③

## カイロプラクティック 臨床レポート

日本上部頸椎カイロプラクティック協会代表 賀来 史同\*

今回は上部頸椎サブラクセーション・パターンの普遍性を、数年ぶりに来院された患者さんの検査を通して紹介させていただきます。

### パターン分析 Pattern Analysis

カイロプラクティックにおいては「いつ」「どこを」「どのように」「なぜ」アジャストするのか、しないのか、という指針に従ってアジャストメントを行なう。なぜならば、カイロプラクティックの目的は脳からの神経の伝達を妨害しているサブラクセーションのアジャストメントにあるからである。では、そのサブラクセーションの存在をどのようにして知なのか。その筆頭に挙げられるのが脊柱両側の皮膚温度測定によるパターン分析である。カイロプラクティックで用いられる皮膚温度測定は、脊柱両側の皮膚温度を測定する事により、その左右の温度差を波形で示して自律神経の機能

レベルを知るものである。この測定器は1923年に Dr. Dossa Dixon Evins によって開発され NCM (Neurocalometer) と呼ばれている。1930年に入って Dr. B. J. Palmer と Dr. Lyle Sherman によって「いつアジャストメントを行なうか」を客観的に知るための科学検査法として用いられ始めた。

パターン分析には、この伝統的な「いつアジャストメントするのか」を知るためのシャーマン方式に代表される Pattern System と、「どこをアジャストメントするのか」妨害の場所を知るためのガンステッド方式である Break System がある。上部頸椎専門カイロプラクティックで行なうのは Pattern System である。人間には一生を通して不変である固有の血液型や指紋が

\*賀来史同 (かく・ふみお)

●連絡先：賀来カイロプラクティックオフィス  
東京都豊島区巣鴨1-20-13  
TEL. 03-3946-5814 FAX. 03-3946-5077  
協会HP：www.specific.jp

あるように上部頸椎にサブラクセーションが存在する時、その人固有の上部頸椎変位の方向を示すリスティングが再現し、それに伴った温度差によるパターンが頸椎上部に再現する事になる。

「皮膚温度測定によるパターン分析の信頼性は約85%」とアメリカの上部頸椎専門カイロプラクティックの重鎮からお聴きした事があるが、私の臨床でも約90%と思われる結果を得ている。100%でない理由として、皮膚表面温度は、精神的なストレスや薬の服用、睡眠不足や筋肉の疲労など様々な要因の影響も受けるからである。そこで、この補完的検査として一般的には短足のチェックが用いられる。当協会会員のオフィスではサブラクセーションの存在を確認するために更に重心測定を行ない、その人固有のサブラクセーションのパターン分析の確率を高めている。

上部頸椎専門カイロプラクティックでは、症状が取れたから「効いた」、症状に変化がないから「効かなかった」という判断はしない。あくまでもパターン分析によりサブラクセーションの再現が認められた時はアジャストメントを行い、症状の改善は自然治癒に委ねることになる。そのためにデータの保存は非常に重要となる。

NCMも科学技術の進歩に伴い、最近では非接触型のスキャナーで測定を行い、コンピューターによってパターンを含むデータを管理する事ができるようになった。次に紹介する症例を通して、機種の違いで表示の違いはあるものの、何年経過しようと、サブラクセーションが存在する時には、その人固有のパターンが頸椎上部に再現するという事実を確認していただく事ができよう。(今回は紙面の都合により、皮膚温度パターンのみ紹介している。)

## 上部頸椎カイロプラクティック

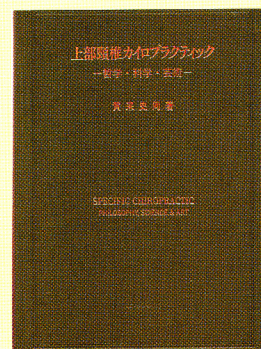
— 哲学・科学・芸術 —

賀来史同著／トム・ジェラルディー推薦・序文

頸椎1番、2番、いわゆる上部頸椎だけを微調整することにより、人間が生来持っているイネイトインテリジェンス（自然治癒力）を活性化させるというカイロプラクティックの理論体系を、特にB.J.パーマーのH.I.O.ホール・イン・ワン学説を忠実に実践できるよう細大漏らさず詳述。

A4判／438頁／定価21,000円（本体20,000円＋税）

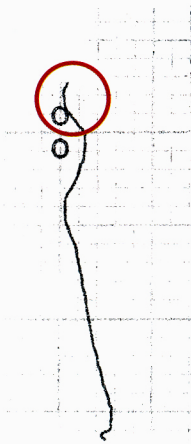
エンタプライズ刊行



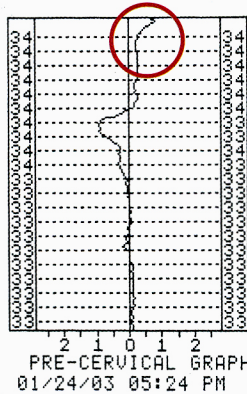
申込み問合せ：たにぐち書店 フリーダイヤル 0120-811-813 フリーFAX 0120-811-817

□症例1□

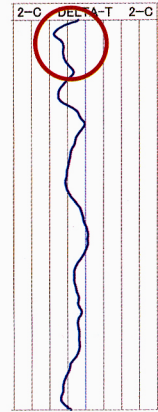
初回は1986年(14歳)で、その後数年に1回検査に来院しているが、サブラクセーションが再現した時には常に頸椎上部に同様のパターンが認められる。



1986/07/29 (14歳)



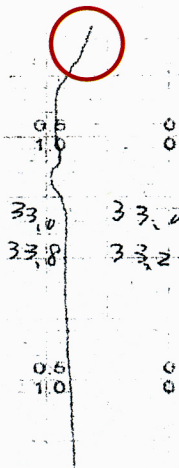
2003/01/24 (30歳)



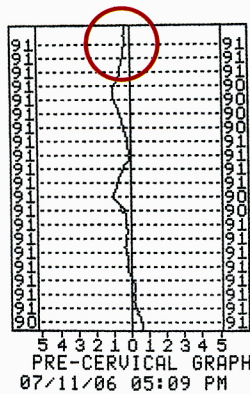
2004/06/19 (31歳)

□症例2□

16年ぶりに来院された方で、サブラクセーションが再現し、初回時と同様のパターンが認められる。2006年再来院時には、異なる測定器にて計測しているが、同様の波形が出ている。



1990/09/12 (46歳)



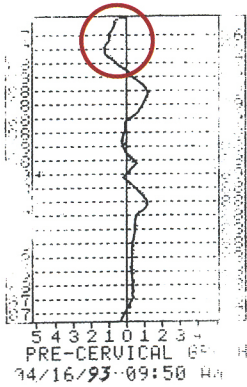
2006/07/11 (62歳)



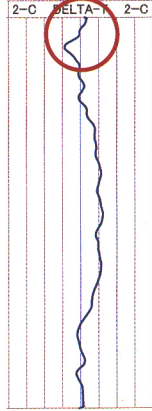
2006/07/11 (62歳)

症例3

10年後の検査であるが、サブラクセーションが再現し、頸椎上部に同様のパターンが認められる。



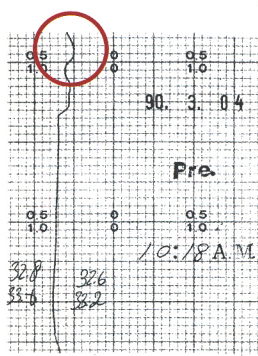
1993/04/16 (38歳)



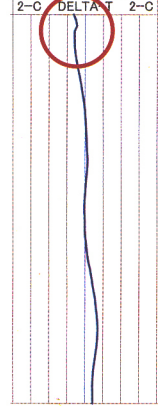
2003/08/20 (48歳)

症例4

15年ぶりに来院されたが、サブラクセーションの再現により、同様にパターンが認められる。



1990/03/04 (39歳)



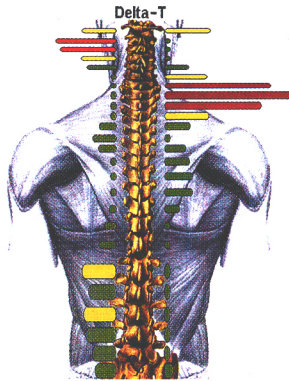
2005/10/14 (55歳)

症例5

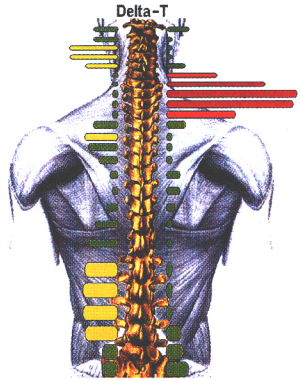
この方の場合も、サブラクセーションの再現により、独特のパターンが認められる。その状態は、バーグラフによっても示される。



2005/06/14

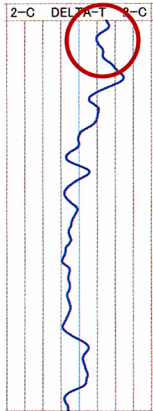


2006/08/05

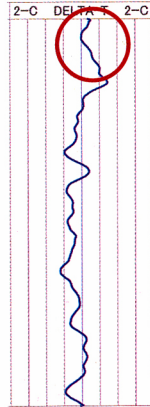
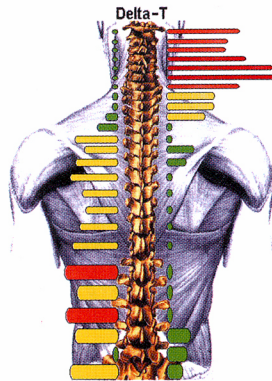


□症例6□

この方は、1ヶ月後の状態であるが、改善はされつつあるものの、再度サブラクセーションが認められ、パターンが再現している。



2005/09/17



2005/10/18

